

# 府中市学校適正規模・適正配置検討協議会

## 第7回 協議資料

日時：令和5（2023）年8月2日（水）午後1時30分  
場所：府中市役所 第2庁舎

# 本日の概要と今後の進め方

第6～8回

第9・10回

各学校の適正規模・適正配置に向けた  
対応策を深く分析する  
適正規模・適正配置の実現に向けた  
留意点を整理する

答申を取りまとめる

概要

- 第5回で挙げた対応策の候補について、その対応策で適正規模・適正配置の問題が解消されるのか、詳細な分析を行います
- 適正規模・適正配置の実現に向け、分析した対応策を実行していく上での留意点を整理します
- 優先的に対応策を検討する4校（対策検討校）以外の学校の対応策について協議します

- 答申提出に向けて、答申案に対するご意見をいただき、答申の取りまとめを行います

協議事項

- 各学校の対応策
- 適正規模・適正配置の実現に向けた留意点
- 対策検討校以外の学校における対応策

- 「府中市立学校の適正規模・適正配置の実現に向けた方策について」答申案の検討

配布資料

- 対象校周辺の状況、隣接校の受入れ可能人数、学校選択制の5つの手法
- 他自治体における統合の事例

- 答申（案）

# 協議事項①：Dグループの対応策

## 武蔵台小の対応策の候補

対応策	第5回検討協議会までにいただいた主な意見	本協議会としての具体的な対応策の案
通学区域の見直し	<ul style="list-style-type: none"> <li>仮に武蔵台小がなくなった場合、中央線付近から七小まで通うことは大変と考えられるため、子どもが安全に通学できるように学区の是正も考えたほうがよい</li> <li>武蔵台小学区からは、七小よりも九小の方が通いやすい可能性がある</li> </ul>	
学校選択制	<ul style="list-style-type: none"> <li>大規模校の児童に希望を調査し、小規模校に通うようにすることが考えられる</li> <li>学校を選択を保護者に任せることの是非を議論すべき</li> <li>学校選択でどの程度の児童数の変化があるのか未知数</li> <li>完全に自由な選択では、特定の学校に児童が偏ることが懸念される。完全な自由選択ではなく、ある程度の制限を市で設定すべき</li> </ul>	
統合	<ul style="list-style-type: none"> <li>急激な人口増加は見込まれないため、七小と統合することが望ましい</li> <li>統合校の立地は、建物の老朽化度も考慮して決めるべき</li> <li>統合する場合は、地域コミュニティの核となる施設を確保するとともに、地域に根差した思い出を残す方法を考えるべき</li> <li>統合する場合は通学距離が長くなる児童が発生するため、そのケアも考える必要がある</li> </ul>	
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>武蔵台小と七中で小中一貫校にし、府中市全体から児童・生徒を集めることが考えられる</li> </ul>	

# 通学区域の見直し・学校選択制

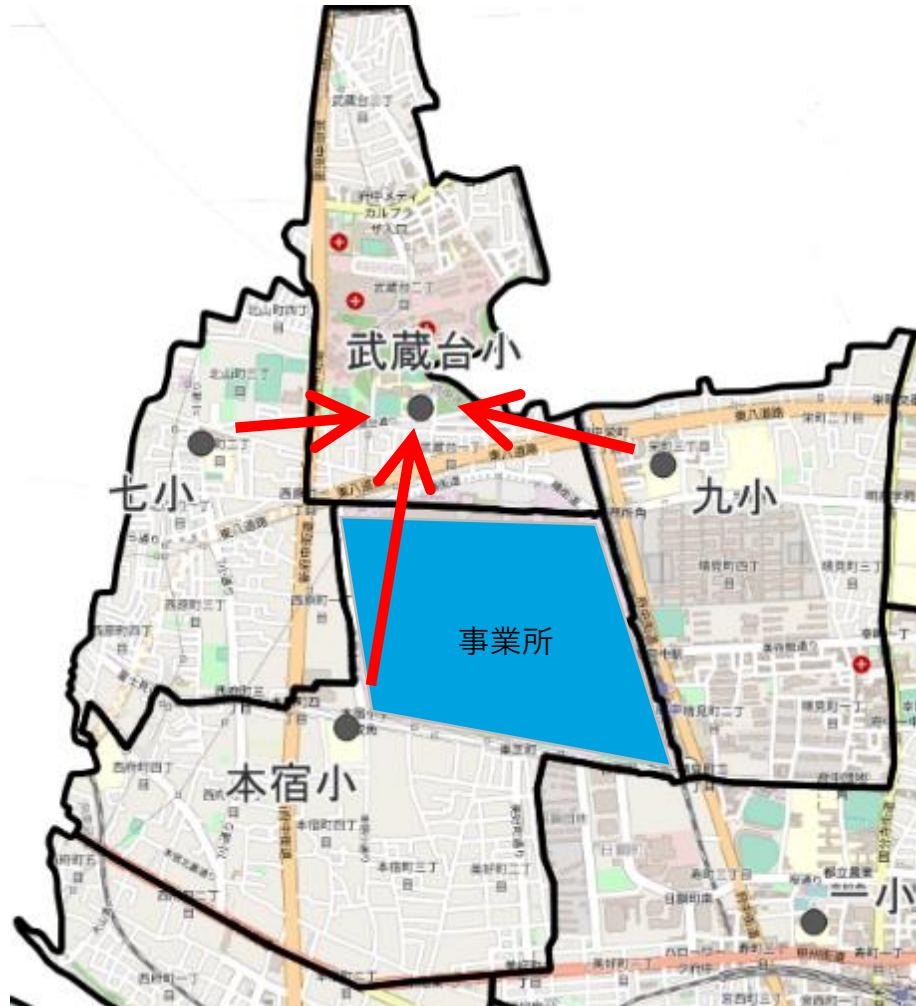
## 隣接校の児童数・1学級当たり児童数・学級数

・ 武蔵台小の隣接校である七小の学級数は、標準規模の下限である12学級と予測されます

	学年	児童数 (人)						1学級当たりの児童数 (人)						学級数 (学級)					
		R5 2023	R6 2024	R7 2025	R8 2026	R9 2027	R10 2028	R5 2023	R6 2024	R7 2025	R8 2026	R9 2027	R10 2028	R5 2023	R6 2024	R7 2025	R8 2026	R9 2027	R10 2028
武蔵台小	1年	24	37	37	29	36	38	24	19	19	29	18	19	1	2	2	1	2	2
	2年	45	26	37	37	29	36	23	26	19	19	29	18	2	1	2	2	1	2
	3年	31	45	26	37	37	29	31	23	26	19	19	29	1	2	1	2	2	1
	4年	33	35	45	26	37	37	33	35	23	26	19	19	1	1	2	1	2	2
	5年	44	39	35	45	26	37	22	20	35	23	26	19	2	2	1	2	1	2
	6年	41	46	39	35	45	26	21	23	20	35	23	26	2	2	2	1	2	1
	計	218	228	219	209	210	203							9	10	10	9	10	10
七小	1年	57	69	52	50	37	39	29	35	26	25	19	20	2	2	2	2	2	2
	2年	52	57	69	52	50	36	26	29	35	26	25	18	2	2	2	2	2	2
	3年	65	54	57	69	52	50	33	27	29	35	26	25	2	2	2	2	2	2
	4年	60	65	54	57	69	52	30	33	27	29	35	26	2	2	2	2	2	2
	5年	62	65	65	54	57	69	31	33	33	27	29	35	2	2	2	2	2	2
	6年	60	64	65	65	54	57	30	32	33	33	27	29	2	2	2	2	2	2
	計	356	374	362	347	319	303							12	12	12	12	12	12
九小	1年	87	68	70	63	66	65	29	34	35	32	33	33	3	2	2	2	2	2
	2年	71	84	68	70	63	66	36	28	34	35	32	33	2	3	2	2	2	2
	3年	80	70	84	68	70	63	27	35	28	34	35	32	3	2	3	2	2	2
	4年	67	74	70	84	68	70	34	25	35	28	34	35	2	3	2	3	2	2
	5年	83	62	74	70	84	68	28	31	25	35	28	34	3	2	3	2	3	2
	6年	79	82	62	74	70	84	40	27	31	25	35	28	2	3	2	3	2	3
	計	467	440	428	429	421	416							15	15	14	14	13	13
本宿小	1年	101	124	95	90	64	96	34	31	32	30	32	32	3	4	3	3	2	3
	2年	115	103	124	95	90	64	29	34	31	32	30	32	4	3	4	3	3	2
	3年	121	122	103	124	95	90	30	31	34	31	32	30	4	4	3	4	3	3
	4年	118	131	122	103	124	95	30	33	31	34	31	32	4	4	4	3	4	3
	5年	104	117	131	122	103	124	35	29	33	31	34	31	3	4	4	4	3	4
	6年	122	107	117	131	122	103	31	36	29	33	31	34	4	3	4	4	4	3
	計	681	704	692	665	598	572							22	22	22	21	19	18

## ● 対象校周辺の状況

- 武蔵台小学区は、七小・九小・本宿小学区と隣接しています
- 九小は、武蔵台小学区との境目の付近に立地しています
- 武蔵台小と本宿小の間には、大規模な事業所があり、通学の妨げとなります

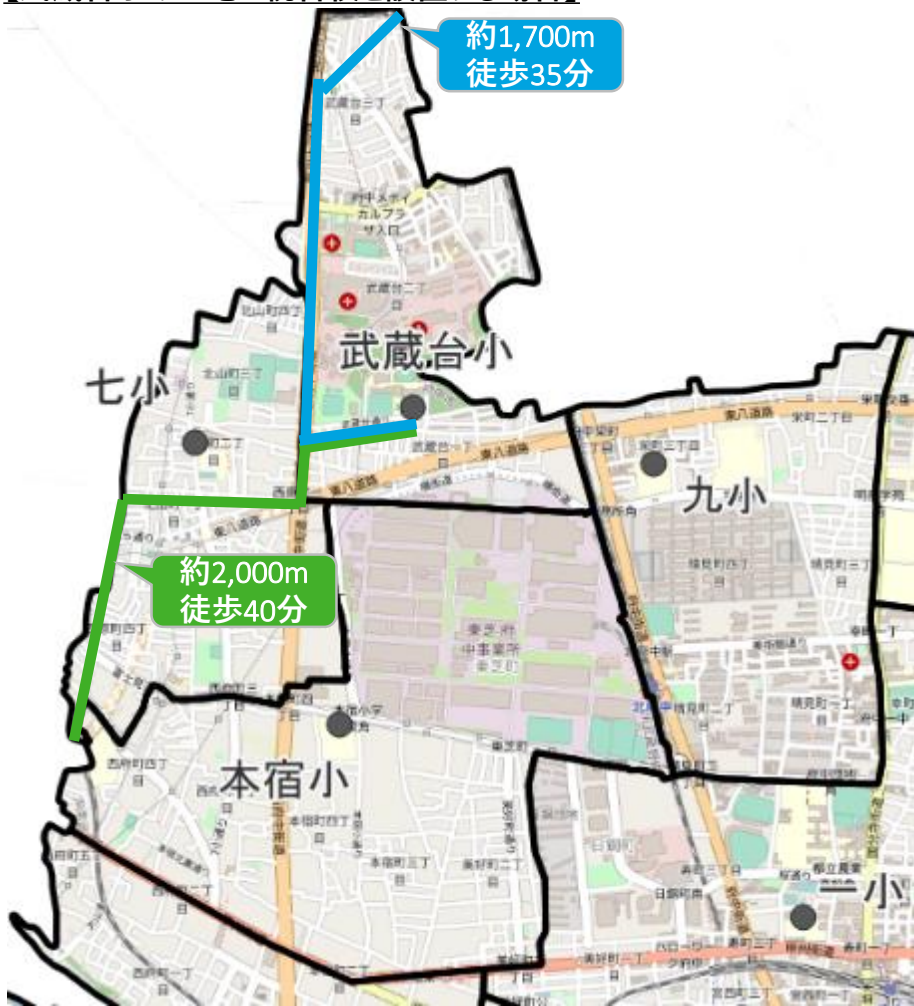




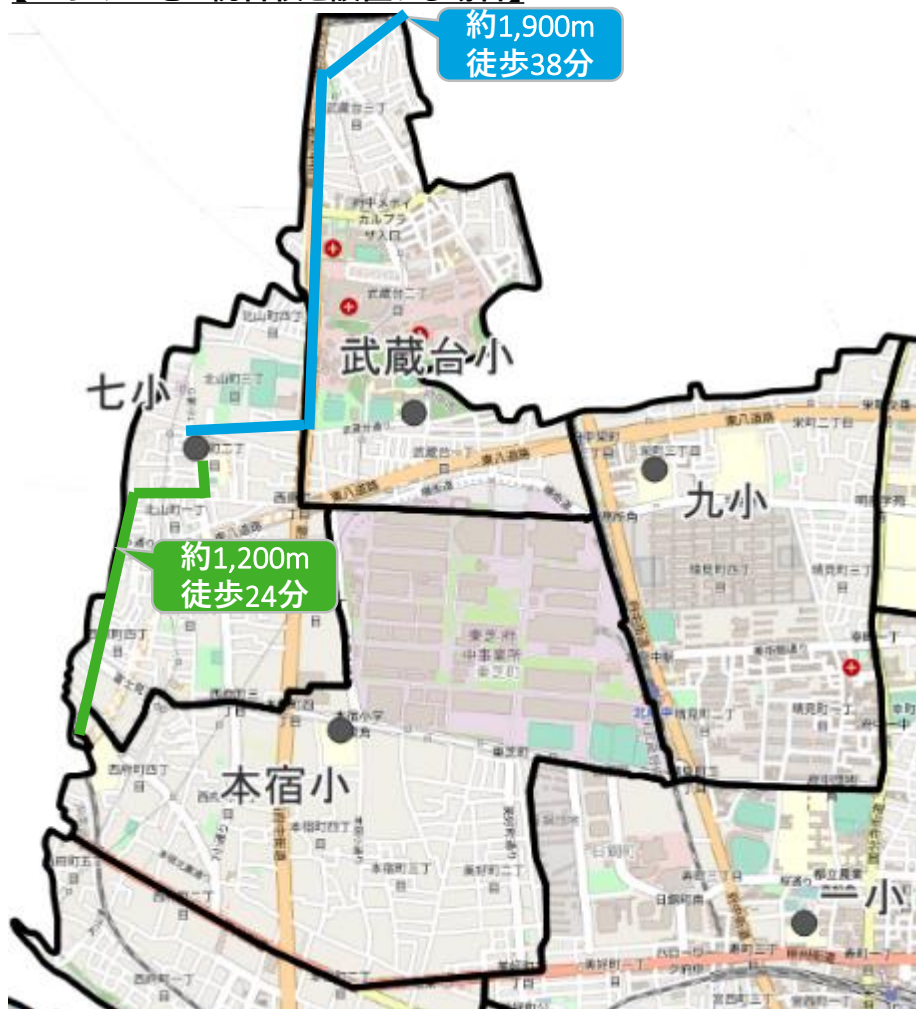
● 統合後の通学距離・時間

- 現在の武蔵台小の立地に統合校を設置する場合、通学距離は最大で約2,000m、通学時間は最大で約40分と見込まれます
- 現在の七小の立地に統合校を設置する場合、通学距離は最大で約1,900m、通学時間は最大で約38分と見込まれます

【武蔵台小の立地に統合校を設置する場合】



【七小の立地に統合校を設置する場合】



注：所要時間は、小学生の徒歩の速さを50m/分と仮定して計算している。

## ● 統合校の児童数・1学級当たりの児童数・学級数

- 七小と武蔵台小の統合校の規模は、標準規模の範囲になると予測されます

	学年	児童数（人）						1学級当たりの児童数（人）						学級数（学級）					
		R5 2023	R6 2024	R7 2025	R8 2026	R9 2027	R10 2028	R5 2023	R6 2024	R7 2025	R8 2026	R9 2027	R10 2028	R5 2023	R6 2024	R7 2025	R8 2026	R9 2027	R10 2028
七小	1年	57	69	52	50	37	39	29	35	26	25	19	20	2	2	2	2	2	2
	2年	52	57	69	52	50	36	26	29	35	26	25	18	2	2	2	2	2	2
	3年	65	54	57	69	52	50	33	27	29	35	26	25	2	2	2	2	2	2
	4年	60	65	54	57	69	52	30	33	27	29	35	26	2	2	2	2	2	2
	5年	62	65	65	54	57	69	31	33	33	27	29	35	2	2	2	2	2	2
	6年	60	64	65	65	54	57	30	32	33	33	27	29	2	2	2	2	2	2
	計	356	374	362	347	319	303							12	12	12	12	12	12
武蔵台小	1年	24	37	37	29	36	38	24	19	19	29	18	19	1	2	2	1	2	2
	2年	45	26	37	37	29	36	23	26	19	19	29	18	2	1	2	2	1	2
	3年	31	45	26	37	37	29	31	23	26	19	19	29	1	2	1	2	2	1
	4年	33	35	45	26	37	37	33	35	23	26	19	19	1	1	2	1	2	2
	5年	44	39	35	45	26	37	22	20	35	23	26	19	2	2	1	2	1	2
	6年	41	46	39	35	45	26	21	23	20	35	23	26	2	2	2	1	2	1
	計	218	228	219	209	210	203							9	10	10	9	10	10
統合校	1年	81	106	89	79	73	77	27	27	30	27	25	26	3	4	3	3	3	3
	2年	97	83	106	89	79	72	33	28	27	30	27	24	3	3	4	3	3	3
	3年	96	99	83	106	89	79	32	33	28	27	30	27	3	3	3	4	3	3
	4年	93	100	99	83	106	89	31	34	33	28	27	30	3	3	3	3	4	3
	5年	106	104	100	99	83	106	27	35	34	33	28	27	4	3	3	3	3	4
	6年	101	110	104	100	99	83	34	28	35	34	33	28	3	4	3	3	3	3
	計	574	602	581	556	529	506							19	20	19	19	19	19

## 参考：統合の事例

### ● 統合に係る状況（多摩市）

- 多摩市では、多摩第二小の通学区域の一部を東寺方小・東愛宕小（小規模校）の通学区域に変更したうえで、東愛宕小と西愛宕小（小規模校）を統合しました

#### 【対応策実行前（H24時点）】

	東愛宕小	西愛宕小	多摩第二小
統合前の学級数	<u>6学級</u>	<u>6学級</u>	<u>24学級</u>
児童数の見込み	減少する見込み	減少する見込み	24学級規模で推移する見込み

- ↓
- H25 多摩第二小学区の一部を東寺方小の学区に変更
  - H26 多摩第二小学区の一部を東愛宕小の学区に変更
  - H28 東愛宕小と西愛宕小を統合し愛和小を開校

#### 【対応策実行後（H30）】

	愛和小（統合校）	多摩第二小
対策後の学級数	<u>11学級</u>	<u>16学級</u>
統合校の立地	東愛宕小を改修	—
対策後の通学距離	最大で <u>約1.5km</u>	最大で <u>約1.7km</u>

出典：多摩市教育委員会「多摩第二小学校・東愛宕小学校・西愛宕小学校、和田中学校・東愛宕中学校の通学区域の変更、学校統合に関する計画」「既存地区3小学校（多摩第一小・多摩第二小・東寺方小）及び愛宕地区統合新校 教育環境整備計画」、多摩市ホームページ「多摩市立小・中学校の児童・生徒数、学級数」を基に作成

### ● 統合に係る状況（立川市）

- 立川市では、けやき台小と若葉小（小規模校）を統合しました

#### 【対応策実行前（H27）】

	けやき台小	若葉小
統合前の学級数	<u>17学級</u>	<u>8学級</u>
児童数の見込み	減少する見込み	増加する見込み

- ↓
- H30 2校を統合し若葉台小を開校

#### 【対応策実行後（R2）】

	若葉台小（統合校）
統合後の学級数	<u>20学級</u>
統合校の立地	けやき台小の敷地で建替え （通学距離や、日影規制の影響を考慮）
通学距離	最大で <u>約1.5km</u> （仮に若葉小の敷地を活用すると、最大で約2km）

出典：立川市教育委員会「けやき台小学校と若葉小学校の統合及び校舎の建替え方針説明資料」、立川市ホームページ「市立小中学校の児童・生徒数」を基に作成



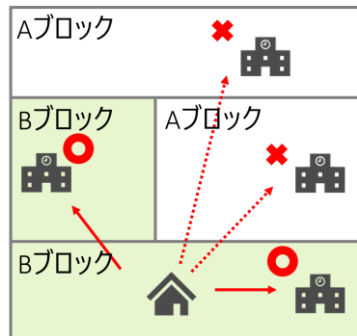
## 参考：標準規模未満の学校でのメリット・デメリット

視点	メリット	デメリット
<p>児童・生徒 (学習・生活面)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 学校行事での活躍の機会が多い。</li> <li>■ 部活動等では、試合に出られる機会が多くなる。また、委員会活動等でもリーダーになれる機会が多い。</li> <li>■ 学年を超えた交流が多く、児童生徒間のつながりが生まれやすい。</li> <li>■ 顔と名前が一致しやすく、児童生徒相互の人間関係が深まりやすい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ (単学級の場合) クラス替えができないので、人間関係に課題が生じた場合解決が難しくなりやすい。心機一転の機会が作れない。</li> <li>■ 部活動の選択肢が少ない。また指導者が少ないので、部活動に制限がある。</li> <li>■ 集団の中で多様な考え方に接する機会や切磋琢磨する機会が限られてしまう。</li> <li>■ 運動会や文化祭等クラス単位で競い合う教育活動が少なくなる。</li> </ul>
<p>教員 (学校運営等)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 学校生活や校外学習等の行事において、児童生徒の状況を把握しやすく、引率等もしやすい。また、きめ細やかな指導ができる。</li> <li>■ 体育館を広く使ったり、空き教室を活用したりできるなど、施設を効果的に利用できる。</li> <li>■ 教員間の意思疎通が図りやすく、相互の連携が密になる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 運動会等の行事の準備が大変であり、本番の際も一人で何役もこなさなければならなくなる。</li> <li>■ 会計対応、保護者会資料作成、公務文書の処理等の事務を少人数で行わなければならない。また、相談相手も少ない。</li> <li>■ 教職員が少ないため、教科や経験年数などバランスのとれた教員の配置が難しい。</li> <li>■ 非常時と災害時の対応や地域パトロール時等の人手が足りない。</li> <li>■ 児童生徒の一人当たりに係る学校運営経費が大きくなりやすい。</li> <li>■ 運動会や合唱コンクールなどにおいて、大規模校のようにクラス単位の競い合いがなく、行事が盛り上がらない。</li> </ul>
<p>その他 (保護者等)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 運動会や学芸会等で児童生徒が活躍する機会が増える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 全体の発注量が少ないので、卒業アルバム代などの物品の単価が高くなる。</li> <li>■ PTA活動等の負担が多くなる。またPTAの役員も同じ保護者が何度も引き受けなければならないケースも出てくる。</li> </ul>

# 参考：学校選択制・統合について

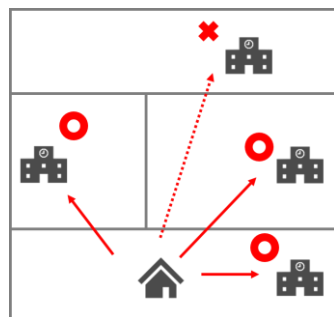
## ● 学校選択制の主な手法

### 【ブロック選択制】



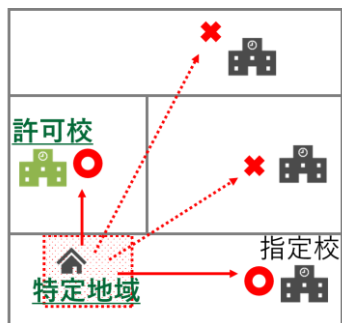
- ブロックに分け、そのブロック内の希望する学校に就学を認めるもの
- 一定の選択の自由があり、選択の幅が広いので、児童生徒数の偏在が強まる可能性がある

### 【隣接区域選択制】



- 従来の通学区域は残したままで、隣接する区域内の希望する学校に就学を認めるもの
- 通学距離が長くなりすぎないことで安全性が確保されやすく、地域コミュニティとの連動が大きく阻害されない一方で、選択の自由度は低くなる

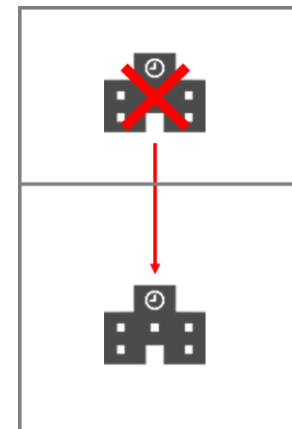
### 【特定地域選択制】



- 従来の通学区域は残したままで、特定の地域に居住する者について、許可校の学校選択を認めるもの
- 大規模校の解消等を図ることができるが、一方通行の選択なので、選択の自由が平等ではないともいえる

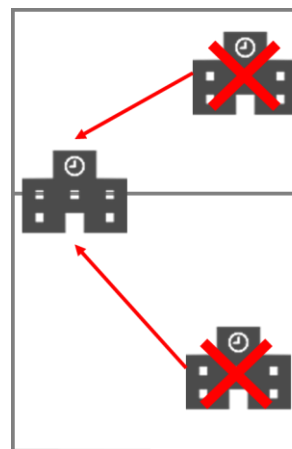
## ● 統合の主な手法

### 【既存学校の活用】



- 既存の学校に統合するもの
- 既存の学校の地域コミュニティの維持や施設の有効活用が可能な一方で、通学距離が延びることや、統合の規模によっては施設増設の必要が出てくる

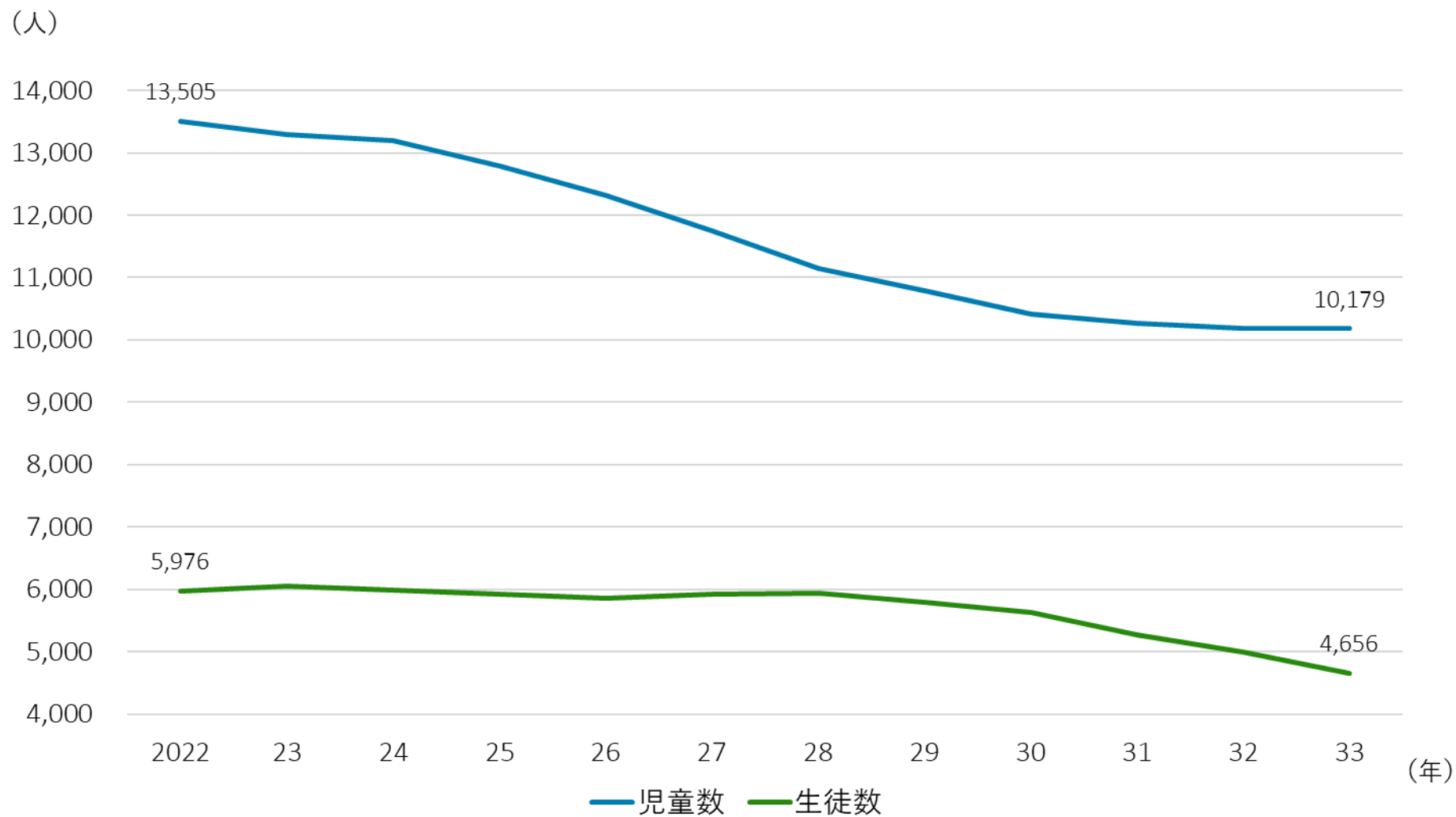
### 【新設統合】



- 新たな用地を確保して、複数校を統合して新設校を整備するもの
- 通学距離等にも配慮して立地を選ぶこととなるが、立地の調整や新設費用等の財政負担は大きくなる

出典：府中市「府中市立学校の適正規模・適正配置の基本的な考え方」を基に作成

## 参考：2033年までの児童・生徒数推計



注：児童数は2028年まで、生徒数は2031年までの値が、既に産まれている人口を基にした推計値である。

## 第8回協議会に向けて：中学校Dグループの対応策

### 七中の対応策の候補

対応策	第5回検討協議会までにいただいた主な意見	本協議会としての具体的な対応策の案
通学区域の見直し	<ul style="list-style-type: none"> <li>府中市の中学校は、通学距離が長いと感じるところが多いため、統合ではなく、通学区域の変更で対応すべき</li> </ul>	
学校選択制	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校の選択を保護者に任せることの是非を議論すべき</li> <li>学校選択でどの程度の生徒数の変化があるのか未知数</li> <li>完全に自由な選択では、特定の学校に生徒が偏ることが懸念される。完全な自由選択ではなく、ある程度の制限を市で設定すべき</li> </ul>	
統合	<ul style="list-style-type: none"> <li>通学時間や安全性を考慮したうえで、十中との統合が考えられる</li> <li>七中と十中の統合は、地域住民にとってイメージしにくいことである</li> </ul>	
その他	<ul style="list-style-type: none"> <li>武蔵台小と七中で小中一貫校にし、府中市全体から児童・生徒を集めることが考えられる</li> </ul>	

## ● 隣接校の生徒数・1学級当たり生徒数・学級数

- 七中の隣接校である十中は、小規模校の状態が続くと予測されています

	学年	生徒数（人）						1学級当たりの生徒数（人）						学級数（学級）					
		R5 2023	R6 2024	R7 2025	R8 2026	R9 2027	R10 2028	R5 2023	R6 2024	R7 2025	R8 2026	R9 2027	R10 2028	R5 2023	R6 2024	R7 2025	R8 2026	R9 2027	R10 2028
七中	1年	87	73	77	73	62	71	29	37	39	37	31	36	3	2	2	2	2	2
	2年	90	87	73	77	73	62	30	29	37	39	37	31	3	3	2	2	2	2
	3年	64	91	87	73	77	73	32	30	29	37	39	37	2	3	3	2	2	2
	計	241	251	237	223	212	206							8	8	7	6	6	6
一中	1年	215	218	222	205	204	204	36	36	37	34	34	34	6	6	6	6	6	6
	2年	208	214	219	222	205	204	42	36	37	37	34	34	5	6	6	6	6	6
	3年	210	219	214	219	222	205	35	37	36	37	37	34	6	6	6	6	6	6
	計	633	651	655	646	631	613							17	18	18	18	18	18
四中	1年	192	207	210	232	217	247	32	35	35	39	36	35	6	6	6	6	6	7
	2年	212	208	207	210	232	217	42	35	35	35	39	36	5	6	6	6	6	6
	3年	223	204	208	207	210	232	37	34	35	35	35	39	6	6	6	6	6	6
	計	627	619	625	649	659	696							17	18	18	18	18	19
十中	1年	116	109	117	106	125	116	29	36	39	35	31	39	4	3	3	3	4	3
	2年	130	119	109	117	106	126	33	40	36	39	35	32	4	3	3	3	3	4
	3年	120	124	119	109	117	106	40	31	40	36	39	35	3	4	3	3	3	3
	計	366	352	345	332	348	348							11	10	9	9	10	10

## ● 対象校周辺の状況

- 七中の対応策は、通学区域の見直しや統合が考えられるという意見をいただいています
- 具体的な検討は、次回の検討協議会で実施します

